

オルセー美術館特別協力 生誕 170 周年 「エミール・ガレ」

サントリー美術館（六本木） 2016. 06. 29～08. 28

「アール・ヌーボー」は、19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて、欧州中心に沸き起こった「新しい芸術」で、絵画、彫刻、建築から生活の隅々にまで良質な芸術性を求めた様式で、幅広い美術工芸品を発展させて暮らしを豊かにした。



「エミール・ガレ」(1846～1904)は、1878 年パリ万国博覧会に独自に開発した“月光色”ガラス（酸化コバルトにより淡青色に発色させた素地）の陶器や庭園装飾のための陶器を出品し、幻想的な新技術を駆使した斬新なガラス器が脚光を浴びた。

本展は、彼の創造性をその源の 5 つの柱から捉え直し頂点を極める試みで、選りすぐれの「約 100 件」（未発表約 20 件を含む）と「オルセー美術館」の特別協力によるガラス器やデッサン類「約 40 件」を公開する企画である。

< 展覧会の構成 > ポスターの写真は、意匠「昼顔形花器」（哦）1899 年

第 1 章 ガレと祖国 : 陶器・ガラス器とともに素地の美しさを活かしながら、花模様やリボン文様などを上手に取り入れて欧州の歴史主義に根付いた。

第 2 章 ガレと異国 : イスラム、中国、日本などの影響が数多く見られる。

第 3 章 ガレと植物学 : さまざまな植物のモチーフに溢れている。

第 4 章 ガレと生物学 : モチーフは生物学的な視点から探求している。

第 5 章 ガレと文学 : 文学者の印象的な一節を作品に刻み込んでいる。



花器「フランス菊」1881～85 年頃



飾棚「森」 1900 年頃